

株式会社日清製粉グループ本社 連結業績予想

来期の収益は大幅増益、従来水準を上回り、売上高は過去最高更新の見込み。

[158期連結決算]

株式会社日清製粉グループ本社（社長 正田 修）の158期連結決算は、売上高は低価格志向の影響を受けた製粉事業・食品事業の売上減少が大きく、減収となりました。

経常利益は第1四半期での価格低下による減益が大きく影響しました。その後、コストダウン施策の効果が寄与しはじめたことと、価格低下に対する積極的な対応施策が効果をあらわしたことにより回復基調となり、下期については前年を上回る収益を上げることができました。しかしながら、通期としましては上期の減益幅が大きく、減益となりました。

[159期連結決算業績予想]

159期連結決算業績予想は、製粉事業でのリレーションシップ・マーケティングの推進による営業体制の強化、食品事業での市場ニーズに応えた新製品の開発・投入などで売上が回復し、飼料事業で畜産用飼料が値上げとなることなどから、売上高は4,100億円と過去最高を更新する見込みです。

収益面では、当社を取り巻く業界全般で厳しい状況が続きますが、製粉事業・食品事業をはじめ各事業で前期より取り組んできましたコストダウン施策の効果が大きく実現し、また製粉事業・食品事業の出荷が伸張することから、大幅な増益となり、経常利益197億円、当期純利益104億円と従来水準を上回る見込みです。

[158期キャッシュ・フロー]

キャッシュ・フローは、鶴見工場小麦粉生産能力増強等への積極的な設備投資、自己株式の取得39億28百万円等がありましたが、手元資金は長期運用資金を含め、22億26百万円増加しました。

[158期単体決算]

当社は昨年7月2日に全事業を分社し、持株会社となりましたので、158期単体決算は、昨年7月～本年3月の営業収益が各事業会社に移管され、売上高862億円（前年比72.8%減）、営業利益17億18百万円（前年比86.8%減）、経常利益30億80百万円（前年比78.5%減）、当期純利益33億38百万円（前年比64.2%減）となりました。

以 上